

学校だより

わかくさ



平成30年度を振り返って

校長 川村 泰夫

まもなく、平成という一時代が終わろうとしています。新しい元号は4月1日に示され、5月1日から施行されるということですが、時の移り変わりを特に感じるこの一年の締めくくりとなりました。

まずは、今年度卒業を迎えた児童生徒の皆さん、保護者、ご家族のみなさん、ご卒業おめでとうございます。進む道は違っても、皆さんにたくさんの喜びと幸せがありますように心から願っています。そのためには、これからも、一生懸命努力して、自らの道を切り開き、新しいことにもどんどんチャレンジしてほしいと思います。

さて、平成30年度は未来に向かって基礎作りをした一年と捉えています。教育の根幹をなす、10年に1度のサイクルで改訂される「学習指導要領」が間もなく全面実施となります。あらゆる面で技術革新が進み、価値観が多様化する社会をいかに生きていくかが問われる今日、この先10年を見込んでどんな力を子どもたちにつけていくのかを示した、とても重要な改訂です。本校では、新しい学習指導要領を見越して、教育課程の改善や授業改善の在り方についての取組をすすめています。

また、2020年には東京でオリピック・パラリンピックが開催されます。同年、本県では総合文化祭全国

大会も開催されます。学校経営計画には、文化・芸術・スポーツの振興を昨年度から柱としており、これから益々注目される障害者スポーツへの参加や競技力の向上に取り組みしました。県の大会での活躍はもとより、全国の大会で上位の成績を収める生徒もおり、将来のparaスリートの誕生を予感しています。また、文化芸術部門においては、授業で行った制作活動等の学習の成果を積極的に作品展やコンクールに出品しました。数々の賞をいただき、子どもたちの溢れる感性と無限の可能性を感じました。

我が国がめざすこれからの社会は、ダイバーシティ(多様性)を認め、障害の有無に関係なく一人一人を価値ある存在として、積極的に参加や人材活用を推進する社会です。今年実施された高知龍馬マラソンのファンランのように、確実に社会参加の機会は広がっています。私はこの変遷していく社会で、若草で育った子どもたちがどんな活躍できる社会が必ず訪れることを信じています。だからこそ、学校教育の中で、子どもたちが活躍をし、自信をつけ、社会に参加する経験を少しでも多く積み、卒業後にその個性や才能が大きく開花することを心から願っています。児童生徒の皆さんがより一層の成長を遂げるよう、教職員一丸となってこれからも取り組んでいく所存です。この一年保護者の皆様、関係者の皆様に感謝し、児童生徒の皆さんの奮闘に心から拍手を送り、ご挨拶とさせていただきます。

ポトルキャップ収集

及び学校生活アンケート報告

児童生徒部長 沖 馨一郎

ポトルキャップ収集報告

今年度も環境問題に関する活動「私たちがしっかりとやれるエコ活動」のテーマの一つとして児童生徒会を中心にポトルキャップ収集に取り組みしました。回収したポトルキャップは、高知県労働者福祉協議会を窓口として、リサイクル業者に買い取っていただき、その対価を発展途上国の子どもたちの支援活動をして、ポリオワクチンや栄養食として、その子どもたちに届けることになっています。1学期に集まったポトルキャップは211キログラムで105.5人分のワクチンになりました。なお、キャップの分別等は、昨年度に続き、今年度も高等部の作業学習に取り組みでもらっています。2・3学期に集まった分についても3月に送ることになっていますので、今後ともご協力をお願いします。

学校生活アンケート報告

6月と11月に「学校生活アンケート」を実施しました。このアンケートは、児童生徒が学校生活を送る中で、どのようなことを感じているのかについて、率直な気持ち伝えてもらうために行っています。アンケートの中には、児童生徒からさらに楽しい学校にするためにしたいこと等、いくつか意見を出してくれています。できるだけ寄り添えるように検討していきたいと考えています。今後も児童生徒が楽しく学校生活を送ることができているかを知ることの方法として、このアンケートを役立てていきたいと考えています。ご家庭の方でも何か気になることがありましたら、遠慮なく担任まで連絡ください。よろしくお願いします。

小学部より

小学部主事 堀 ゆかり

「高3生による絵本の読み聞かせ」

2月15日(金)、高等部F組の高3生4人が、「国語表現」の授業で取り組んだ「絵本の読み聞かせ」のために小学部に来てくれました。

4人が二人ずつ男子組、女子組の二組に分かれ、絵本選びから、スライド作り、読み聞かせの練習と、この日のために一生懸命準備をしてくれました。小学部の子どもたちが好きそうな絵本はどのようなものか、絵本選びに時間がかかったそうです。「絵が見やすい」「話が長過ぎない」「言葉にリズムがあって面白い」等の絵本を探し、女子組は低学年向きの『バナナナン』を、男子組は、「おばけ」や「犬」が親しみやすいのではないかと考え、高学年向きの『こいぬと10ぴきのおばけ』を選んでくれました。

当日は、4人がプレイルームにテレビモニターを準備してくれ、小学部のみんなを笑顔で迎えてくれました。まずは、女子組が『バナナナン』を読んでもくれました。『バナナナン』という楽しいフレーズと、鮮やかな絵に、みんな楽しそうに見入っていました。次は男子組。落ち着いた雰囲気と「おばけ」のお話、特に小学部低学年の男の子たちは興味津々で聞いていました。2冊読み終わると、「はい!」と一人の児童が手をあげ、「お願いします」とVOC A(音声出力会話補助装置)を何度も押してアンケートをお願しました。『バナナナン』をリクエストし、もう一度読んでもらいました。2回目が高3女子組も緊張がほぐれてきたのか、1回目

よりも大きな声で、しかも「バナナナン」とみんなで一緒に言えるように、児童の方を向いて大きな声でゆっくりに言うなど、表情豊かに読み聞かせをしてくれました。

高等部のお兄さんお姉さんの優しい読み聞かせに、小学部の児童はどの子も静かによく聞いていました。普段関わりが少ない小学部と高等部ですが、来年度もこのような取組を行い、交流していきたいと思



中学部より

中学部主事 山本 洋平

2月22日(金)に10名の保護者の方に来校いただき、学部参観を兼ねた「中学部卒業生を送る会」を行いました。今年度は10名が中学部を巣立っていきます。会の中で卒業生全員が、中学部で頑張ったことや高等部で頑張りたいことなどを発表してくれました。聞いているとすごく頼もしく感じたと同時に、もうすぐ卒業なのだなという寂しさも込み上げてきました。卒業生のみなさん、在校生からプレゼントトさせてもらった袋、大切に使用してくださいね。在校生もいただいた手作りかごを大切に使用してもらいます。中学部全体での学習も残り少なくなってきましたが、最後まで在校生の手本となるような存在でいてください。

お忙しい中、参観および学部懇談に参加いただきました保護者のみなさま、本当にありがとうございます。また、今年度の学部運営にご理解、ご協力をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。



高等部より

高等部主事 河野 美知

2月21日、高等部全員で「卒業生を送る会」を行いました。今年度の卒業生は9名。送る在校生は17名です。「送る会」と聞くと寂しさが溢れてきますが、在校生全員で先輩たちの卒業をお祝いし楽しい思い出を作ってもらおうと、皆気分を盛り上げて積極的に参加しました。最初に、生徒会新執行部の進行でセレモニーが行われました。9名の卒業生から一言ずつ言葉を受け取った

在校生は、お返しに、一人一人に寄せ書きのプレゼントを贈りました。温かい心のこもったプレゼントに、卒業生も、その担任達も大感激でした。その後は、恒例のバールンバレー大会です。先輩も後輩も教員も入り、チームの中で皆が一つになり取り組みました。総当たり戦で試合を行い、笑いあり、悲鳴あり、声援ありで、それはそれは盛り上がりました。全試合に負けてしまったチームもありましたが、悔しさよりも皆で最後まで力を出し切って戦ったことに、達成感や一体感を感じている様子でした。

最後には在校生と教員でアーチを作り、心からの「おめでとう」を贈りながら3年生を体育館から見送りました。そして3年生は「ありがとう」の言葉と少しはにかんだような笑顔で応えていました。きつと3年間の楽しい思い出の一つとなることでしょう。卒業生の皆さん、おめでとうございます。



研究部より

研究部長 前田 正博

平成30年度研究部の取組について 研究テーマ

子どもたちが主体的に学ぶための教育課程の検討、主体的・対話的で深い学びの視点で教科指導や教科等を合わせた指導の充実を図る。

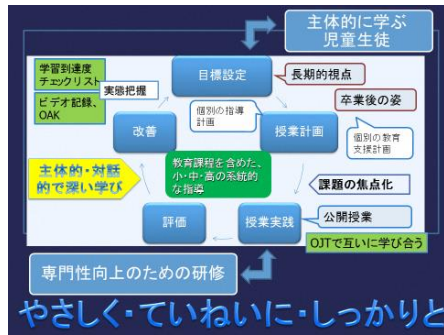
本校は肢体不自由特別支援学校で、在籍する児童生徒の障害は重度・重複化、多様化してきている。また、発達段階が異なるため一人一人の教育的ニーズに応じた指導を一層充実することが求められている。

そのような実態を踏まえ、以下の3点の視点での授業改善に取り組み一年間の実践研究に取り組んだ。

- ① 各教科等の目標や内容を明確にした取組
- ② 各教科等を合わせた指導と教科別の指導の関連を明確にした取組
- ③ 障害の実態や特性、認知等に
応じた取組

〈取組の実際〉

それぞれの課題を解決するために、昨年度までと同様、縦割りグループを編成し、研究を推進した。各グループとも、ていねいに個々の児童生徒の実態把握を行うとともに、個別の教育支援計画・個別の指導計画を活用した、PDCAサイクルでの授業づくりに取り組んだ。具体的には上記の3つの視点をもとに、1人1回以上の公開授業を行い、全校で様式を統一した指導案や振り返りシートを活用しながら授業改善に取り組んだ(図1参照)。そして、日々の授業改善を通じて、主体的・対話的で深い学びの視点に基づきながら教育課程の検討につなげた。全校では、教育課程研究集会におい



<図1 研究推進のイメージ>

て分校も交えながら日々の実践について報告しあひ、教科学習について検討することができた。また、夏と冬の長期休暇中には外部講師を招き、コミュニケーションや感覚統合についての研修を行うことができた。

一年間の取り組みを通して、以下の3点が成果として上げられると考える。(1)国語・算数(数学)等の教科の目標と内容を意識した取組を行い、指導事例の共有化を図ることができた。(2)1人1人以上公開授業を行うことを通じて、お互いの専門性を向上させることができた。(3)授業改善に「主体的で対話的な深い学びの視点での授業改善シート」を活用することができた。

来年度は、それぞれのグループで見えてきた課題を整理しながら、「思考力・判断力・表現力」「知識・技能」「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質・能力を育成するために主体的・対話的で深い学びの視点をもった授業改善を行い、教育課程の検討を図りながら児童生徒の実態に応じた教科指導の充実等を目指していく必要がある。

楽しかった

「アダプテッドスポーツ」研修会
小学部 長尾 あゆみ

2月14日、小学部では広島文化学園大学の加地信幸先生をお招きして「アダプテッドスポーツ」研修会を行いました。アダプテッドスポーツとは「対象となる人の障害の種類や状態に適合させたスポーツ」という意味なのだそうです。

いつもと違う体育館の様子に子どもたちは大喜び。最初は、加地先生が考察されたベンチいす体操からスタートしました。ベンチいすに座って、ゆっくりとしたラジオ体操の曲に合わせて身体を動かす体操です。子どもたちはいつもより背筋がピンと伸びて、腕や手を大きく動かすことができました。そこからは、「スクーターボード運動」「トランポリン運動」「マットでふわふわ風船あそび」の3つに分かれて活動をしました。中でも「スクーターボード運動」はびっくり！支援者と一緒に膝立ちで乗ったり、立って乗ったり：もちろんゆったり座る児童も、腰骨を立て、顔をまっすぐ起こし、今まで経験したことのないスピードでガゴト道を進んでいきます。「怖くないかな…」と心配しましたが、子どもたちも大人もみんなニコニコの笑顔に。教員側は変化を感じるこの大切さを学ぶ機会となりました。この学習を次年度の授業作りにつなげていきたいと思えます。遠いところ来てくださった加地先生やスタッフの皆様、当日参加してくださった保護者の皆様に感謝申し上げます。



高等部国語科
読書活動推進のための学習

高等部国語科 河野美知

2月26日、高等部EF組、国語科の授業の一環として、講師をお招きし、読書活動推進のための学習を行いました。

講師として来校してくださったのは、金高堂書店外商センターの西村順子さんです。とても気さくに、楽しく興味深いお話と活動を、ご指導いただきました。

最初は、今売れ筋の本の紹介。生徒たちが一番知りたかった情報です。「へえ」「ほお」という声とともに身を乗り出して聞く様子が印象的でした。どうしてこれらの本が人気なのか、西村さんのお話を聞きながら、色々な視点で考えることができたようです。

次に、「ワークショップ」として書店のお仕事の一部を体験させていただきました。そのお仕事とは「ポップ制作」です。本屋さんに行くと、手描きのポップ広告が目に入ります。その内容やデザインはそれぞれによく工夫されていて、ポップ作りが本の売り上げに大きな効果を与えていることがよく分かります。その大切なお仕事を体験させていただきました。これがなかなか難しい。「まずはお客さんを立ち止まらさなければ：」「こんな小さな紙の中に、この本の魅力を短い言葉で：？」



「どうやったら本を手にとってもらえるか？」など、数々の疑問を話し合いながら、じっくり時間をかけて、それぞれの個性あふれる「手描きポップ」がついに完成！ 四苦八苦して仕上げた作品を発表し、皆の表情には大きな達成感が見られました。残念ながら時間内に完成させることができなかった生徒もいましたが、「人に読んでもらうために」という新たな視点で本に向き合えた時間はとても貴重なものになったと思います。

他にも、書店の裏話など、知らなかったことをたくさん教えていただいた大変勉強になり、また今まで以上に本屋さんを身近に感じることができたと思います。これからも本に親しんでもらいたいです。特に卒業する3年生には、様々な本を通して視野を広げ、思考力、想像力を高めて、これからの長い人生をより豊かなものにしてほしいと願っています。

高知龍馬マラソン ファンラン

保健体育部 久保 浩平

2月17日(日)に高知龍馬マラソンが開催され、ファンランの部に本校から10名の生徒が参加しました。参加するにあたり当日の天気、気温、児童生徒の体調、走る距離など、様々な不安要素がありました。当日は全員が怪我等もなく元気に完走することができました。

これまで、本校の児童生徒が参加できるスポーツ大会は、5月に春野で行われる高知県障害者スポーツ大会や11月に本校で開催されたポッチャ大会など限られた大会しかありませんでした。また、参加する児童生徒は毎回同じ児童生徒が多いという現状もありました。

しかし、今回のファンランは、レジャー用の車いすだけでなく生活用の車いすでの参加も可能で、自走はもちろん、電動を運転してや、介助者に押ししてもらいながらゴールを目指すなど、競技志向の生徒のみならず、誰もが楽しく参加できる大会でした。

「ファンラン」は、その意味の通り「楽しく走る」ことを目的としています。今回参加した児童生徒の皆さんは、楽しく走るという目的が達成でき、これが今後のスポーツ参加につながるのではないかと感じているところです。

保護者のみなさまには、朝早くから送迎等にご協力いただき本当に感謝しています。学校では、このようなスポーツ大会への参加を通じて、スポーツを好きになってもらうとともに、余暇活動の充実につながるように取り組みしていきたいと考えていますので、引き続きご協力よろしくお願ひします。



連絡帳の様式の見直しについて

本校では、学校及びご家庭での児童生徒の様子について、連絡帳を通してやりとりを行っております。保護者の方にとっては、連絡帳を通して児童生徒の様子がわかり、教師にとっても、児童生徒の様子を効果的にお伝えする機会として有効に活用しております。

現在、学校では、児童生徒が学校生活を安心、安全に過ごせることを意識して、アクシデントやヒヤリハットの報告を行い、教職員間で共有を行っております。

その分析のなかで、特に帰り支度で慌ただしい下校前の時間帯にアクシデントやヒヤリハットが起こりやすいことが分かりました。児童生徒への目離しをしないように教職員も努力をしておりますが、連絡帳を仕上げるために手薄になっている状況が常態化している現状も見えてきました。

通知表について

については、連絡帳の意義や意味の重要性も考えつつ、児童生徒の安心、安全への支援を行えるように、日々の連絡帳への記載を精選した様式に変更いたします。このことについては、2月18日(月)のPTA役員会の場でご説明させていただきます。保護者のみなさんのご理解、ご協力をお願いいたします。しかしながら、食事や水分量、排泄の有無や時間、医療的ケアの実施状況等、連絡の必要な内容は簡素化せず、見やすく分かりやすくお伝えできるように工夫していきたいと考えております。

また、放課後に施設を利用されているケースにおいて、互いにシートの共有をしている場合もあるようです。担任までご相談ください。

本校では、学習指導要領の改訂、全面实施に合わせ、2020年度からの個別の指導計画様式の変更を検討することとしました。

それに伴い、現在学期ごとに出している通知表を、来年度より9月と3月の2回にしたいと考えています。理由は、1学期は、個別の指導計画を確認いただいた後の短期間で評価しなくてはならないことや、高等部は現場実習があることから、教科によっては、取組が進んでいないこともあり、評価が難しい現状がありました。そこで、一学期間しっかり取り組んだものを夏期休業中に評価するとともに改善策まで検討し、9月に保護者のみなさまにご説明する。また、10月以降の取組は、3月にご説明という形にさせていただきます。と考えています。

新しい学習指導要領を見据え、実践したことに対し児童生徒にどんな力が付いたかを的確に把握するとう評価の在り方を教員が考慮してのことになります。このことについても、2月18日(月)のPTA役員会の場でご説明させていただきます。保護者のみなさまには、ご理解・ご協力いただきませうようお願いいたします。

平成30年度各種受賞

- 高知県児童生徒表彰(受賞)
 - 鈴木 隆晟さん(中学部2年)
 - 北川 夏帆さん(高等部3年)
 - 横川 陽紀さん(高等部3年)
 - 第25回全国特別支援学校文化祭
 - 主催：全国特別支援学校文化連盟
 - 「写真部門」優秀賞
 - 永山 真衣香さん(高等部2年)
 - 大崎 優太さん(高等部2年)
 - 「絵画部門」優秀賞
 - 田村 直輝さん(高等部3年)
 - 第53回高知県美術教育総合展
 - 「立体の部」特選
 - 「はるまぢか」(中学部C組)
 - 「立体の部」入選
 - 宮本 猛さん(中学部3年)
 - 高知市スポーツ賞
 - 主催：高知市教育委員会
 - 奨励賞
 - 鈴木 隆晟さん(中学部2年)
 - 北川 夏帆さん(高等部3年)
 - はばたき賞
 - 主催：全国はばたきの会
 - (全国特別支援学校
 - 肢体不自由教育校長会)
 - 松尾 美咲さん(高等部3年)
- 児童生徒の皆さん、受賞おめでとうございます。